

鹿児島市の経済成長のエンジン

アフターコロナの
“新しい”観光のカタチ

本市では、訪れる人の感動、暮らす人の幸せをつくる持続可能な観光地となっていくため、“稼ぐ観光”の実現を目指しています。

【観光プロモーション課 ☎216-1510 FAX216-1320】

なぜ？

今「観光振興」に取り組む理由

人口減少時代を乗り越えるためのエンジンとして

「鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、本市の人口が今後10年間で約1.3万人減少すると見込んでいます。これにより、毎年、約16・8億円の個人消費が失われていく見通しです。

観光は宿泊や飲食、交通など、幅広い業種に関連し、地域経済全体への大きな経済効果が期待できます。人口減少時代の経済成長のエンジンとして、観光振興に取り組むことが大切です。

都市機能や豊かな観光資源を生かす

本市は高度な都市機能と、桜島や錦江湾などの自然や歴史・文化、まちなかの温泉など、豊かな観光資源を兼ね備えています。観光振興に取り組むことで、これらの強みを生かすことができます。

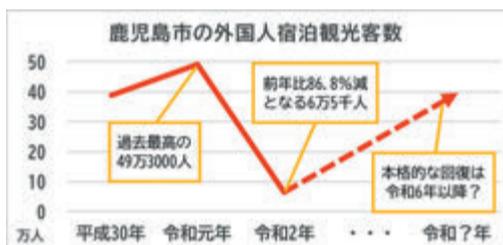
コロナ収束後の需要回復を見据えて

令和元年に過去最高を記録した本市の外国人宿泊観光客数は、翌年以降、新型コロナウイルスの影響により大きく減少しています。

国内も含む観光需要の回復に向け、今後は旅行形態の変化や新たなニーズの高まりなど、アフターコロナの動向も踏まえながら、取り組みを進めていく必要があります。

センターラス天文館に新しい観光案内所

英語対応ができるスタッフが常駐し、バリアフリーにも配慮した各種案内を行っています。薩摩切子をイメージしたデザインの空間で、皆さんをおもてなしします。



個人消費減

人口減

新たな取り組みを紹介します

ユニバーサルツーリズムの推進

高齢者や障害のある人の割合は、国内総人口の3割を超え、観光面でもバリアフリーの対応を進める必要があります。本市では、令和5年に開催予定の特別全国障害者スポーツ大会を契機に、誰もが安心して快適に楽しめる「ユニバーサルツーリズム先進地」を目指しています。

食の多様性(フードダイバーシティ)の推進

健康意識や宗教上の理由などによる多様な生活習慣に対応するため、食にも更なる多様性が求められるようになっていきます。



ベジタリアンやハラールなどに対応する市内飲食店の情報発信に加え、今後はアドバイザーの派遣や、メニューの開発支援などにも取り組めます。

ICTでもっと便利に

4月より、スマートフォン向け鹿児島市公式観光アプリ「わくわく」の本格運用を開始しました。

ポイントやクーポンでお得に

- ・加盟店の利用でポイントがたまり、1ポイント1円で使える
- ・加盟店で使えるお得なクーポンが届く



みんなが楽しめる情報が満載

バリアフリー情報やベジタリアン対応メニューなどを確認でき、高齢者や障害のある人、外国人なども安心して楽しめます。



多目的トイレや授乳室



店内の様子



ハラール、ベジタリアン対応メニュー(多言語)

会員登録キャンペーンを実施中

アプリをダウンロードして会員登録すると、加盟店で使える500円分のポイントをプレゼントします。 ※先着1万5000人で終了



ホームページ

「わくわく」加盟店を順次拡大

アプリ「わくわく」を通じ、利用者の好みに応じたキャンペーン情報などを提供することで、リピーター(鹿児島ファン)の獲得を目指しています。

より多くの店舗で利用できるよう、加盟店を順次拡大予定です。

■対象業種(一例)



飲食店



アクティビティ



観光施設

市長からの
メッセージ

誰もが安心・快適に過ごせるまちづくりを進めています



新たにぎわいの拠点となっているセンターラス天文館。このビルの1階に、市は新たに観光案内所を設置しました。

電停やバス停に近く、また、天文館の定番の待ち合わせ場所になりそうな玄関前の広場に面しています。カフェも隣接する「天文館図書館」のご利用と併せて、市民や観光客の皆さんに気軽にお立ち寄りいただきたいと思っています。

英語でも案内できるスタッフが常駐し、食やショッピングなど楽しみいっぱい天文館から多彩な鹿児島の魅力を発信します。コロナ収束後にはたくさんの海外観光客もお迎えしたいと思っています。

また、来年は特別国体・特別全国障害者スポーツ大会がいよいよ開催されます。市では、高齢の方や障害のある方も安心して旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムを進めており、観光案内所でも研修や情報発信を重ね、バリアフリーに関する国の認定を受けました。鹿児島に暮らす人も訪れる人も、誰もが安心・快適に過ごせるまちづくりをさらに進めていきます。

鹿児島市長 下鶴隆央